



日高未来塾 12月5日(金)

今年度は、東北大学シニア研究員 川島秀一氏が「海と紀州の人びと」と題して高校生、そして中学生のみなさんに講演くださいました。紀伊の歴史や漁業について、そして自分たちの地元である和歌山について新たに知ることがありました。



みなさんの仲間の感想を一部紹介します。

○印南町は「かつお節」の発祥地であることや紀州の人々がさまざまな人々に影響を与えたという、紀州の詳しいことについて学ぶことができた。

現代では、効率的や便利さを考えて人々が生きているが、昔の人々は遊びながら、楽しみながら旅をし、多くの人と交流をしていたという今と昔の大きな違いがあると

知ることができた。現代社会では、便利な面もあるが昔の出来事から学べることや活用できることがあると思った。

○紀州の人々が日本各地へ行き、技術を伝えたり、ある人は定住したりしているのが面白いと感じた。

同じ日本でも気候や生態系により、文化が異なり、それによりトラブルになっていたことも改めて実感しました。



日高クエスト 12月12日(金)

17期生である第2学年は、学年行事として兵庫県を訪れました。淡路市にある北淡震災記念公園野島断層保存館では、観察しながら科学的に学び、自然現象が及ぼす変化や環境について知る機会を持ちました。

また、神戸市では、阪神・淡路大震災の様子を記録した映像や資料、そして被災者の生の声を聞くことで、災害について多角的思考を持ち、自身の知識や理解、そして考えを深める場、阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センターを訪問しました。

目の前にある展示物や資料等からインプットしようと熱心に見聞する17期生の姿が伺えました。可能であればもう少し見学時間があれば、一人一人の学びをさらに深めることができたのに…と感じるほど、前向きな姿勢を大切にされた1日研修でした。



百人一首大会 1月16日(金)

生徒会主催の百人一首大会が体育館で開催されました。目的として「縦と横のつながりを深め、日本の伝統文化に触れる機会にする」を掲げました。

前日の爪切りのチェックでは、各生徒会役員が点検を行い、みんなが安全に大会に挑めるようにしました。全校生徒が、チーム紫式部とチーム清少納言に分かれ、18グループ内で各々が耳を澄ませて聞き取り、札の枚数を競いました。チーム紫式部は1699枚、チーム清少納言は1769枚の札を取りました。

